執筆者一覧（本誌掲載順）
※コメント、アンケート除く

菅村敏次郎（すがむら・けいじろう）
札幌啓成・札幌藻岩・札幌開成など、高校演劇部顧問として北海道に生きる若者を主題にオリジナル脚本を執筆。全国高等学校演劇コンクール（昭和五五年）で最優秀賞、創作脚本賞を受賞。五六年度、北海道芸術新賞に選出された。平成一一年、戯曲集「あしたは天気」を出版。同書は北海道図書館協会選「北海道青少年のための推薦図書」に加えられている。平成一五年、札幌国際大学・表現芸術コースの学生による「音楽舞踏劇・イゼルギリ婆さん」を演出し、ロシア・ユジノサハリンスクで公演。現在、「小さな演劇塾」を主宰し、全道各地で中学生、高校生のワークショップを行っている。また、演技者としても活躍中。「ホルのいた森」、「三弦橋まで」などで、大切な役を演じている。

松井哲朗（まつい・てつろう）
演劇愛好者
演劇随想個人誌・季刊『続・観劇片々』発行。年金生活者。深川市在住。

加藤浩嗣（かとう・ひろつぐ）
北海道新聞記者
一九六五年釧路市生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業。大学時代に大野一雄や状況劇場、第三舞台、転形劇場、夢の遊眠社などを観て、舞台芸術の魅力に目覚める。二〇〇〇年九月から〇四年六月までの北海道新聞文化部在任中、演劇評や映画評を執筆。ダンスなども含む年間最多観劇数（映画を除く）は〇三年の二四四本（同一演目の複数観劇含む）。現在も年間一二〇本程度の観劇を続け、劇評ブログ「シアターホリック（演劇病）http://theater-holic.seesaa.net/」主宰。

藤村智子（ふじむらともこ）
札幌劇場連絡会々長
札幌市芸術文化財団で主に札幌市教育文化会館の自主事業を担当。その後、北海道文化財団コーディネーターを経て、現在同財団理事。ＴＧＲ札幌劇場祭審査員を二〇〇六年のスタート時から三年間務める。二〇一二年から札幌劇場連絡会々長。またＴＧＲ２０１５の審査員も務める。他にＮＰＯ法人コンカリーニョ理事、公益財団法人北海道演劇財団評議員、公益財団法人札幌市芸術文化財団評議員。

飯塚優子（いいづか・ゆうこ）
レッドベリースタジオ主宰、アートコーディネーター
スクリプター、コピーライターを経て、４丁目プラザ企画宣伝部入社。４プラホール、駅裏八号倉庫を通じてアートスペースの運営や地域演劇のマネジメントに携わる。二〇〇〇年から私設空間を運営し、ジャンルを問わず魅力ある表現者との交流を拡げるとともに、札幌の舞台芸術振興や基盤構築に関する提言活動に関わっている。二〇一三年度から札幌演劇シーズン事務局長。北翔大学、北海道教育大学、札幌学院大学で非常勤講師。

安念優子（あんねん・ゆうこ）
一九五二年留辺蘂町で生まれる。江別高校で演劇と出会う。一九八一年夫と小劇場ドラマシアターどもを開くと共に、劇団ドラマシアターどもを旗揚げする。ライフワークは、平和をテーマにした二人芝居？「ババ漫才」の出前公演。（二〇一一以後、フクシマ放射能学習編なども）普段は喫茶ドラマシアターどもの店主（江別市二条二丁目七－一・ドラマシアターども）

平田修二（ひらた・しゅうじ）
一九四七年神奈川県生まれ、一九七五年北海道大学理学研究科修士課程修了。同年に、演劇鑑賞会北座（当時の名称は札幌労演）事務局次長に就任、九六年まで事務局長、理事長を歴任。九六年北海道演劇財団設立と同時に事務局長に就任。現常務理事。九八年以降の札幌座全作品をはじめ、多くの演劇公演のプロデューサーを務めている。他に、演劇創造都市札幌プロジェクト事務局長。

舞台芸術研究プロジェクト研究員

森一生（もり・かずなり）
北翔大学客員教授
札幌静修高等学校演劇部顧問就任（昭和四二年）以来、長年にわたり高校演劇指導に尽力し、同校を二度の全国優勝にまで導いた。全国アマチュア演劇協議会の創作脚本賞を受賞するなど、高校演劇の中心的存在として活躍してきた。札幌市文化奨励賞・北海道文化奨励賞・札幌市芸術賞受賞。

村松幹男（むらまつ・みきお）
北翔大学教育文化学部教授
北海道北見市生まれ。高校時代より演劇をはじめ、北大のサークル「劇団アトリエ」を経て、大学在学中の一九八三年に「デパートメントシアター・アレフ」の旗揚げに参加。全17作品に役者として参加。アレフ終了後（九〇年）、九二年に「Ｔｈｅａｔｅｒ・ラグ・２０３」旗揚げ。代表。劇作、演出、役者。

田光子（チョン・クワンジャ）
北翔大学短期大学部准教授
札幌市生まれ。在日韓国人。幼少時代にバレエ、日本舞踊、韓国舞踊を習う。大学では英文学を専攻し、シェイクスピア劇に関心を持つ。韓国・ソウル梨花女子大学大学院では韓国舞踊を実践・理論面において学び、重要無形文化財である金千興・李梅芳および梨花女子大学元教授の金梅子に師事。現在は北翔舞台芸術で舞踊芸術、身体表現などを担当している。

平井　伸之（ひらい・のぶゆき）
北翔大学短期大学部講師
埼玉県生まれ。北大のサークル「劇団アトリエ」を経て「劇団デパートメントシアター・アレフ」に参加。九二年「Ｔｈｅａｔｅｒ・ラグ・２０３」の旗揚げより参加。役者・演出。

森井綾（もりい・りょう）
北翔大学教育文化学部准教授
一九八八年北海道教育大学札幌分校卒業。以降フリーでデザイン業・デザインコンテンツを中心にディレクターを営む。九五年㈱アドビデオ北海道入社。二〇〇〇年四月㈱アドビデオ北海道退職。〇六年から、本学専任講師。〇九年から現職。

大林のり子（おおばやし・のりこ）
明治大学文学部准教授
神戸市生まれ。大阪大学大学院で演劇学専攻。二〇〇四年より七年間北翔舞台芸術の専任教員を務める。二〇一一年より現職。主に二〇世紀前半の上演および舞台美術の歴史研究。ドイツ語圏に出自を持つ演劇人の共同制作に根ざした舞台制作の状況、その国際的な活動について調査を進めている。

金田一仁志（きんだいち・ひとし）
日本俳優連合（西田敏行理事長）所属。日本演劇教育連盟全国委員。一九九五年、ロシア国内三劇場で、初の海外公演を成功させている。北海道教育大学、藤女子大学非常勤講師。九〇年札幌市民芸術祭奨励賞、九八年市民文化賞受賞。二〇〇〇年東京都フェスティバル（戯曲部門）全国ベストエイト入選。〇九年、日本演劇教育賞ノミネート。北海道新聞夕刊のコラム「舞台裏から」執筆は六年を記録。さっぽろ市民ミュージカル代表。

（声楽関係研究員）

岡元　眞理子
荊木　成子
鷹木真理子
宮武　玲子
石田　実和